

門真・守口生活と健康を守る会 江田みどり事務局長の集会での訴え

私たち門真・守口生活と健康を守る会は、発足当時、事務所が新橋町や石原町あたりから発足した関係もあって、30年以上、門真と守口地域で活動をしています。いまも幸福町に事務所を置き、地域のさまざまな要求実現に頑張っています。

いま、心底実感するのは、急速な貧困です。高齢者・若者を問わず、圧倒的多数の方が、低賃金で身分保障のないまま働かされていたり、年金は、年数が不足していたりで、無年金の方も最近特に目立つようになりました。昭和20年代生まれの人が、病気や障害、生活できる賃金がなく50代で生活保護を申請する例が、ドンドン増えてきました。一人ひとりの生きてこられた人生を聞くと、切なくなります。戦争の傷跡も残っていて、その影響で家族がばらばらになり、お母さんだけで育った方、小学校もまともに出ず、刺青なんかもチラッと見えて昔はやんちゃをしたとか言われる方も珍しくなく、お話を聞くと、どの方も言葉に言い尽くせない苦勞の連続で、戦争と貧困の害悪の大きさに、怒りを感じずにはられません。

医療も、もっと深刻です。いろいろ悪いところがあっても「そんなん全部なんか行かれへん」と、病院に行くのを控えている方は、今ではもう常識です。

また、府立高校が減らされ、授業料も全国一高く引き上げられ、親は、2ヶ所3ヶ所と仕事を掛け持ちし、多重債務や離婚で家庭崩壊するなど、子どもたちにしわ寄せが来ています。府立高校では、授業料未納で2005年度は250人、2006年度は450人、2007年度は610人も子どもたちが退学しています。授業料が払えなくて、退学せなあかんなんて、なんと言うひどい国やと思います。

働く貧困層・若い人のことを考えると、かわいそうで胸が痛みます。無権利状態が常態化していて、いつ病気になるか、首になるか、結婚なんか出来ない、来月は家賃を払えるかと不安をいつも抱えて生きています。若い人が自分の夢ややりたいことが出来ないなんて、何でやねん！なんちゅう国やねん！と思います。

生活保護を、水際作戦でどんなに締め付けても、又高校授業料減免基準を引き下げてもすごく改悪しても、府営住宅家賃減免基準をこれでもかこれでもかと、これもものすごく改悪しても、件数はうなぎのぼりに増えるばかりです。社会保障は貧弱で、収入は増えず、負担ばかり増えるのですから、恐ろしいほどの低所得化・貧困化が進んでいます。

人間を人間としてみない今の資本主義はもう実際、崩壊しています。もうこんな体制では、貧困化は止められません。このまま毎年2200億円の社会保障費削減を強行するなら、深刻な被害がもっと広く深く振興し、心も体も病み、命を落とす犠牲者が、まだまだ出ると思います。

私はいま「2大政党言うけど、違いなんかあると思う？政治の中身を変えんと、私らのくらしも命も子どもたちの未来もないやん？」「世界26カ国が、アメリカ軍の基地に費用にと出している総額より、日本1国の思いやり予算のほうが多いねんで」とか、訴えています。みなさんいっしょに頑張りましょう！